

PAL PARK（パルパーク）を利用した事業  
～世代を超えた仲間との交流の場～

松江市宍道公民館

## 1 宍道地区と宍道公民館の概要

松江市宍道町は、人口およそ8,700人の町である。古来より陸上及び海上交通の要衝として栄えてきた宍道町は、JR山陰本線（宍道駅・来待駅）JR木次線（南宍道駅）及び国道9号線、国道54号線が走り、近年は山陰自動車道と松江自動車道のJCT及びICにより出雲空港へのアクセス拠点のほか、全国への高速ネットワークにつながる要衝として発展している。

しかし、人口減少、高齢化といった課題は解決されない状況にある。こうした中、松江市宍道公民館は、平成28年4月から松江市宍道支所・子育て支援センターとの複合施設（愛称：くらしステーションしんじアエルネ）として新しく建設された。宍道公民館は、地域共創のまちづくりを担い、地域版総合戦略を宍道まちづくり協議会や行政と一緒に計画している。この総合戦略に基づいたまちづくりを展開している。

## 2 事業の趣旨

### （1）事業対象

宍道町にはたくさんの若者グループが存在することが、まちづくり事業で実施している「アイデアプレゼン大会」等でわかった。彼らは地域活性化に興味があることもわかってきた。この若者たちは次世代リーダーであり多世代をつなぐキーマンでもある。

### （2）事業背景

地域住民の拠点となりつつある「くらしステーションしんじアエルネ」の建物は宍道駅前という好立地にある。

昨年、外構部となる前庭、後ろ庭及び裏山にパルパーク（遊び場）を作ってきた。そして、そこで「水燈路 in 宍道」「夏夜祭」「盆踊り」などのイベントを若者グループが実施してきている。また、夏には野外バーベキューをするグループも現れ、利用アイデアが膨れ上がってきた。この施設が若きリーダーと共に青少年育成にも利用できるスペースとなると良い。

### （3）目的

- ア 次世代を担う若きリーダーの発掘と育成
- イ 地域住民への理解と共創
- ウ 青少年の自己肯定感の情操

## 3 具体的な取組内容

### （1）「通学合宿」

宍道公民館では初めてとなる通学合宿を3泊4日で開催した。PTA総会にて会長より実施説明を行い、通学3日間は、スポ少活動及び習い事をしないという制限をかけ参加をお願いしたところ8名の参加があった。

スタッフ募集及びもらい湯依頼は1本釣りやLINEにて実施した。延べ49名の参加を得ることが出来た。

#### 合宿の様子

食事準備



買い物

## (2) 「サマーキャンプトライアル」

これまでのキャンプは1泊2日で遠くの山や海のキャンプ場に出かけ事前にプログラムを決定してから実施していた。今回は、公民館や裏庭・裏山、近隣の川などを使い2泊3日のキャンプを実施し、直前ワークショップにてプログラムを参加児童に決定してもらう自由作戦方式で行う本格的キャンプとした。

### ア ワークショップの様子

「キャンプで何をするか」①キャンプで作りたい食べたい食事は？②自然と遊ぶ！何がしたい？③生活の中でしたいこと。以上の3つの質問から自由プログラム部分を決定していった。



### イ キャンプの様子

公民館にはお風呂がないため、お風呂を作った。山遊びは裏山でハンモックをつつて楽しんだ。また、2日目の夕方からパーティーをしたが、地域の方の差し入れで盛り上がった。



## 4 評価と成果

- (1) 若いスタッフ（次世代）が多く参加できた。近くでのキャンプを実施することで若いスタッフの参加も容易であったと考える。若い方のアイデアとエネルギーの引き出しができた。また、差し入れやもらい湯など地域の方の理解が得られた。
- (2) 地域版総合戦略を軸とした活動となった。若手リーダーの発掘も一つの課題であったが、地域の若者やグループなどたくさんあることがわかってきた。そして、彼らも変化を求めていることを理解できた。
- (3) 自己肯定感を持ってくれた。自分で考え工夫して遊べたことは満足感に繋がった。

## 5 今後の課題と見通し

- (1) (通学合宿) 今以上の成果を出すには3泊4日の通学合宿では短い。習い事やスポ少などへの参加制限をかけると参加者が減る可能性があるため、それを考慮しながら1週間程度で実施する。
- (2) (キャンプ) 中学生や高校生スタッフを増やすために、部活動の大会などを考慮して日程を決定する。また、夏休みに帰省する大学生スタッフにもアプローチしていく。

(文責 : 館長 佐藤和彦)